

高齢者学級 高年大学に学んで

多 田 太郎 吉（九十翁）

（会員・佐伯市青山黒沢）

私は、福沢諭吉先生を尊敬しております。先生がとなえていた八ヶ条の心訓の中に、

「この世で一番素晴らしいことは、常に感謝の念を忘れないことである」

とある貴重な心訓であります。お互いに相手の立場を尊重し、感謝の生活を基本と心がけることが肝要であります。

人間としてこの世に生まれた尊さ、大自然の中で生かされていることを肝に銘じ、感謝の念を忘れてはならないと思います。即ち天地の恵み、一般社会民衆のお蔭であります。父母より受けた身体髪膚、九十年間生かされてきた生命の尊さを感謝するだけでは勿体ない。その感謝の気持ちをいさゝかなりとも報恩の業につとめることこそ人間本来の生き方であり、それが誠の生きがいと私は

信じております。

さて、高齢化社会の進展に伴い、考えなければならぬことは、健康を維持することで、それには時々健康診断を受けることが大切です。勿論趣味を持つことによつて、健康にも生きがいにもつながることもあります。

老人クラブの会、高齢者教室、高年大学も誕生し、老人層の勉強の場が広くなり、私も二年間在学しました。

そのうえ老齢年金までいただき、医療費の恩恵も受けました。年は取っても一生涯学び、教養を身につけることは大切なことだと思います。殊にボケの予防には、何よりも頭の体操が最適だと言われています。又、適当な運動も必要で、老人の健康に良い体操、ゲート・ボールも良いと思います。

私ごとを述べるのは恐縮ですが、頭の体操のため、大

分合同新聞の「読者の声」欄に、二十余年間、愚稿を投稿させていただいておりますことは、私の一生の生きがいであり、楽しみでもあります。同時に、他の投稿者の貴重なご意見も承わり、大いに勉強になり感銘していただきます。

なお、「佐伯史談会」「公民館だより」や、ある佐伯誌にも時々投稿、下手の横好きで、短歌・詩吟・歌・詠歌などにも趣味を持ち、また、故あって、自宅から十八キロの龍護寺の観音様に、七十五年間の月まいりは一度も欠かさずに信仰を続けていますが、心の支えとなり健康にも生きがいにもつながり、もったいないことと感謝いたしております。

家庭につきましては、養子や嫁を買ったら他人根性を捨て、他人様が辛苦を尽して一人前に育てた宝をいたいだいたのであるから、愛情をもって接し、養子や嫁は後継者として見込まれ、迎えられたのであるから、無上の光榮として、互いに思いやりの真心で一体となり、苦案を共にしたならば、問題なく円満な家庭生活が営まれることと思えます。

なお、先祖を尊び大切にすることです。一本の樹に例

えれば、先祖は根であり、幹や葉はわれわれであり、根を大切にせねば樹は枯れてしまいます。

私は五年前に妻をなくし、やもめとなりましたが、家族は勿論周囲の方々の温情、ことに孫嫁のあつい真心には喉が熱くなります。

三人の曾孫も、じいちゃんじいちゃんとなつてくれるので、嬉しいやらかわいいやら、孫の成長を最高の生きがい、楽しみとし、体に気をつけ、天寿を全うしたいと願っています。

恐縮ですが、子どもの躰については、子を持つ親の心を心として家族全員が一体となり、先づ親が自分のいたらないところは反省し、子どもでも何かとりえのあるもので、良いところは充分ほめてやり、悪いところは愛をもって厳しく戒め、あまり馬鹿呼びすると、利口な子どもも馬鹿になつてしまふと言われます。

学校と家庭は常に連絡をとり、児童・生徒あつての先生であり、弟子と言えばわが子も同然で、先生の児童・生徒でなければなりません。

教師は普通の労働者と異り、日本の将来を背負つていく尊い職業です。児童・生徒を学問だけでなく、立派な

国民として教育してくださる尊い聖職です。そのために責任は極めて重大であり、そのご苦労に人一倍尊敬いたしております。それだけに、他人の子どもも自分の子ども同様に、愛情をもって厳しく戒しめてもらいたいものです。

学校や家庭だけでなく、一般社会の人々の、子どもに對する指導が必要です。例えば、他人から自分の子どもが説諭されても「うちの子に限って」と言って反発するのではなく、お互いに感謝の真心をささげるべきで、学校・家庭・社会の三者が一体となり、子どもの指導に努力することが最も肝要と思います。

最後に訴えたいのは、戦前に見られない強盗・暴行・殺人・誘拐などの残酷な事件や、私たちの思いもつかぬことで問題を投げかけたり、学校関係では、校内暴力からいじめの問題が続出し、齢若い者が自分の生命をたったりで、明治生まれの私たちは、日本の将来が案じられなくなりません。

そこで、何と言っても人間づくりがこれからの最も大きな課題です。人間づくりと言ってもなかなか難かしい問題ですが、第一に心の持ち方だと思えます。

先づ、その解決策の一つに、言葉づかいを大切にすることがあります。

その言葉を大切にすると、昭和五十六年五月、大分市に発足し、五月十八日を「言葉の日」にしようとする全国的に呼びかけているそうです。誠に結構なことで、是非その輪を広げていきたいと思えます。言語は思想を交換するだけでなく、言葉使いによっては人間の幸、不幸、生活生命を左右する貴重なものです。

テレビや新聞の報道によりますと、佐賀県馬槽市では日頃挨拶をしない隣りの家の水道の蛇口がとれていたのを、子どもの徒らと思ひ、隣りにどなりこみ、三人を刺殺したいという残酷な事件があったと言います。

「遠くの親戚より近くの他人」という諺があります。隣人は極めて大切で、何時でも気持ちよく走りこんでいけるようにしたいものです。挨拶をせぬ時は、自分の方から誠意を以って接することによって、普通の人なら大抵の人なら誠の心が通じ、感化を与えることにもなります。そうして互いに思いやりのある人間になってもらいたいものです。

情は人の為ならず、まわり廻ってわが身のため、正義

に刃向う刃はあっても、至誠を制する剣はなく、つまり負けて勝つことです。

徳川家康の遺訓の中に、「勝つことばかり知って、負けることを知らざれば、害その身にいたる」の名句があります。

「稔るほど、頭の下がる稲穂かな」は大切であります。なお私たちの今日があるのは、戦争犠牲者のお蔭であることを肝に銘じ、心から感謝するとともに、家内は勿論近隣同志はお互いに励まし慰めあい、助けあいながら仲良く暮らすことが、人生最大の幸福であり、先祖の供養にも、健康維持にもつながり、ひいては、明るい社会づくり、美しい住み良い日本建設の要因となるのではありますまいか。

○ 初春や過ぎし年月しのびつゝ、夢の如くに卒寿むかえる

○ 妻逝きてやもめとなれど孫嫁の あつき真心に陰うるむも

○ 幼稚園四キロの道を行き帰えり 只今と呼ぶひ孫いじらし

私こと、本年卒寿を迎えることができました。これも私自身の力でなく、皆様方のお蔭にほかならず有難いと、感謝いたしています。

つきましては、いささかなりとも報恩の業につとめるのが本意であります。何分にも老いぼれのこと、何もできませんが、少しでもご参考になるところがありましたら幸せと思い、愚稿をしたゝめた次第です。

悪しからずご了承くだされ、ご笑読下さいますようお願い申し上げます。

